

凛風館1Fに

「コラボレーションコモンズ」を開設します！

ラーニング・コモンズ、ステューデント・コモンズ等、コモンズと称する施設が大学生の学びを支える学習環境として開設されています。その背景には、大学生に求められる新しい能力を育成したり、学力格差を縮めるために授業外に学生支援を実施したりするための学習環境を整備しようという大学の意図があります。PISA型能力(OECD2001)に代表される新しい能力は、高等教育分野では学士力(中央教育審議会2008)、社会人基礎力(経済産業省2006)、就職基礎力(厚生労働省2004)が挙げられ(松下2010)、このような新しい能力を培うことが現在の大学生に求められています。

このような力を育成するために、大学は何を提供すればよいのでしょうか。そのためにはいくつかの方法が考えられますが、そのひとつとしてアクティブ・ラーニングがあります。アクティブ・ラーニングでは、協同的な学習や、学生自らの思考を促す能動的な学習を行い、学習者が他者と協同し自律的に学ぶことを重視しています。自律的な学習は授業内にとどまらず、授業外においても学習者が継続して学習することを重視しています。そのため、授業外の学習環境をどう構築するべきなのはアクティブ・ラーニングを実施する上で重要な要素になります。この要素として注目されているのがラーニング・コモンズです。

ラーニング・コモンズでは、学びの場の提供に加えて、ライティングなどの基礎的な学習を支える学習支援の機能を備え、学力に課題を抱える学生が授業外に自分で学ぶことやさらに学びを深めたい学生を支援しています。文部科学省も2012年8月28日の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」において学修時間を増加するために、授業外学習を促進するための学習環境や、学習支援を構築することの重要性を指摘しています。以上のような背景から、関西大学においても授業外における学習者同士の協同、

自律的な学習を支えるためのコモンズを整備することになりました。

2012年度私立大学教育研究活性化設備整備事業において採択された取組として、関西大学は2013年4月に「コラボレーションコモンズ」を開設します。関西大学は、これまで連続採択されたライティング支援、アクティブ・ラーニングの促進、ピアコミュニケーション活動、留学支援のGPに加え、ボランティア活動、教育研究を促進し、成果を上げてきました。これらの学内の教育活動を有機的に結合、実質化させた学習環境としてコラボレーションコモンズを整備することで、他者と協力し合いながら、考え、行動する「考動力」を培った人材を育成することを目指しています。

コラボレーションコモンズは、ライティング、グローバル、ボランティア、ピア、ICT、ラーニングエリアから構成される専門エリアに加え、コラボレーションエリアを設け、他者と共同した学習を支援します。

専門エリアでは、各専門性を活かした学びの生成と学習支援を行います。例えば、グローバルエリアでは、学生スタッフを導入し、留学生による外国語交流会、留学生とのTALKセッション、留学情報の提供、留学をした学生との交流会、留学生向け相談受付アワーを実施します。ライティングエリアでは、レポート作成に関するワンポイント講座やTAによるライティング支援をします。ボランティアエリアやピアエリアでは、ボランティア・ピアに関する情報の提供や活動に参加する学生への説明会を実施します。ICTエリアでは、グループでPCを囲んで作業ができます。ハードスペックのPCとiPadを備えており、動画、マルチメディアプレゼンテーションを制作できます。ラーニングエリアは、プロジェクト、モニター、ホワイトボードを配置し、ゼミでの学習、サークルや課外活動の勉強会、研修などグループワークを実施しやすい環境となっています。

コラボレーションエリアは、多目的スペースとなっています。このエリアには、くつろぎながら雑誌や新聞を読めるコラボレーションラ

ウンジ、ゼミや課外活動の発表を行えるKUステージ、エリアの利用案内・予約、機材貸出を担うKUコンシェルジュがいます。また、コモンズの全域には無線LANを構築しており、ノートPC、iPadを貸し出し、ICTを活用した学習を推進しています。

このように、コラボレーションコモンズでは、正課や課外における学生同士の学び合いを促進し、グローバル・ライティングの専門性を持った学生スタッフが学習支援をし、学生の学びを深めることを目指しています。つまり、コモンズで生成する活動には、学生、

学生スタッフ、教員、職員様々な立場にいる関大人が関わりますので、「学生同士のコラボレーション」、「学生スタッフと学生とのコラボレーション」、「学生スタッフ同士のコラボレーション」、「学生、教員、学生スタッフ、職員とのコラボレーション(ひいては社会とのコラボレーション)」といった多層のコラボレーションが生成されることが想定されます。互いに協力し合うことで、相互作用がおこるコモンズへとの願いを込めてコラボレーションコモンズと名付けました。

またこのような多層なコラボレーションを促す学習環境の整備を行うため、メイン・キャンパス中央に位置し、大学生協があり、学部を超えた学生、教職員が集う場として成立している「凛風館」1Fのオープンスペース(1012m²)に開設することにしました。食事をし、生協に立ち寄るといった学生生活のサイクルから最も近い場所を活用することで、そのサイクルの

中にコモンズ利用を組み込むことを目指します。

なお、コラボレーションコモンズのデザインに関する詳細な記述は、「考動力を育む学習環境“コラボレーションコモンズ”のデザイン」関西大学高等教育研究紀要第四号(2013)をご参照ください。

(教育推進部 岩崎千晶)

